

3. 道路位置指定の技術基準

〔目次〕

3-1. すみ切り

3-2. 延長距離

3-2-1. 新設道路の場合

3-2-2. 既存位置指定道路に接続する場合

3-3. 転回広場

3-3-1. 中間に設置する場合

3-3-2. 終端に設ける場合

3-4. 道路幅員

3-5. 道路等の構造等

3-5-1. 路面の構造

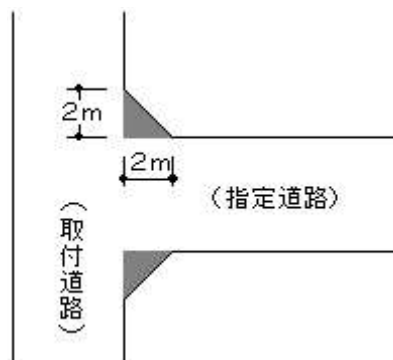
3-5-2. 道路側溝等の構造

3-5-3. 擁壁の構造

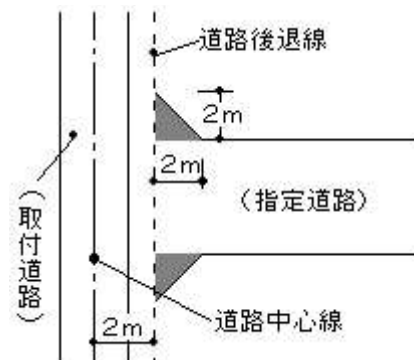
3-1. すみ切り

幅員にかかわらず原則として規定のすみ切りが必要。

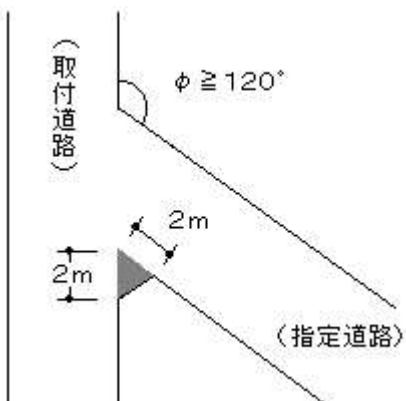
(A) 基本的な両側すみ切りの場合



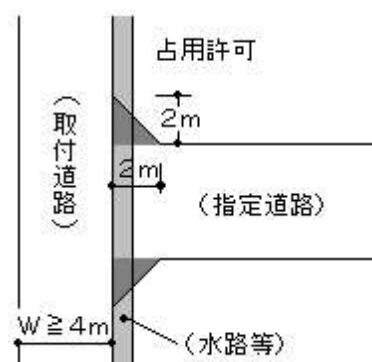
(B) 42条2項道路の場合



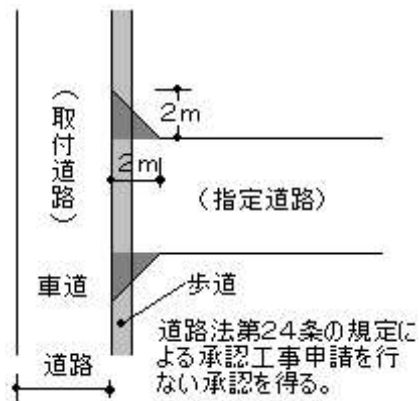
(C) 鋭角部分の場合



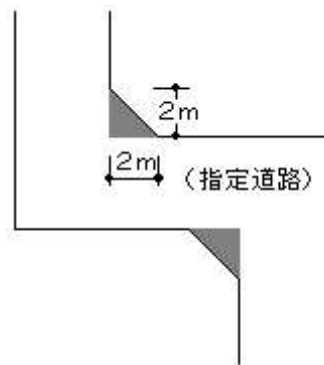
(D) 水路等がある場合



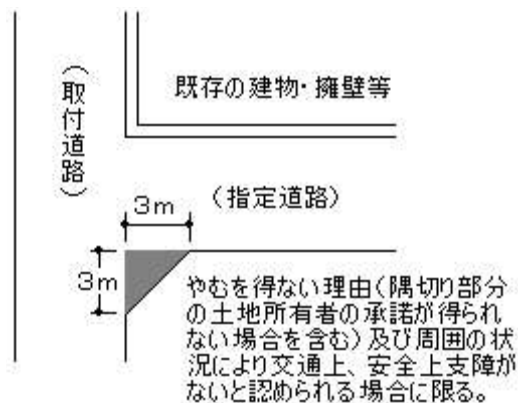
(E) 歩道がある場合



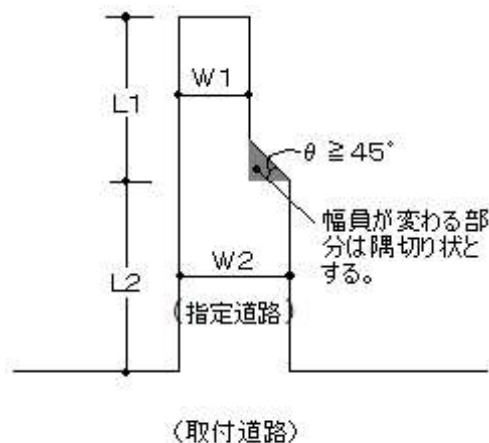
(F) 途中で屈折する場合



(G) どちらか一方の隅切り部分が2 m以上とれない場合



(H) 途中で幅員が変わる場合



$$4 \text{ m} \leq W1 < 6 \text{ m}$$

$$6 \text{ m} \leq W2$$

$$L1 \leq 35 \text{ m}$$

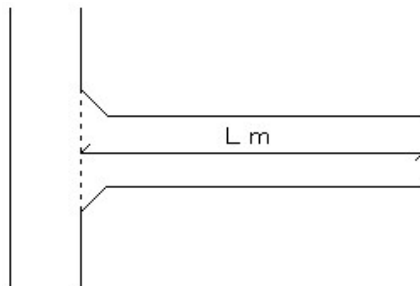
$$L2 : \text{制限なし}$$

3-2. 延長距離

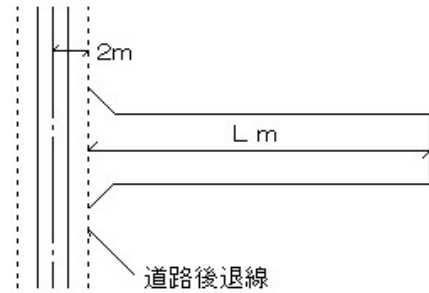
延長距離は道路の中心距離とする。

3-2-1. 新設道路の場合

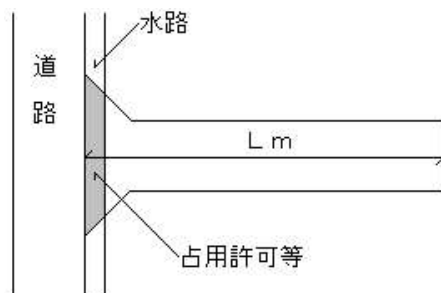
(A)



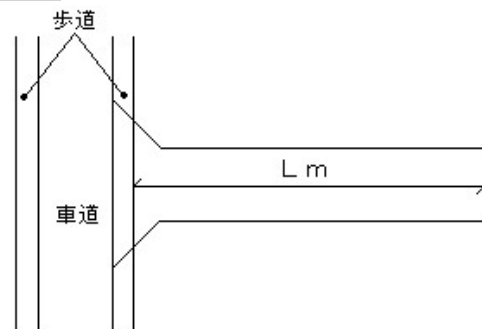
(B)



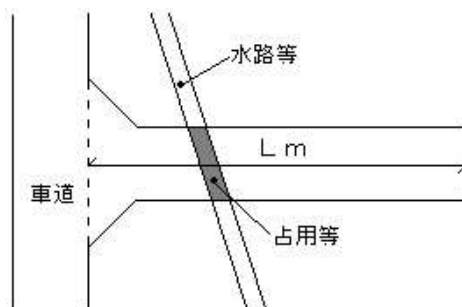
(C)



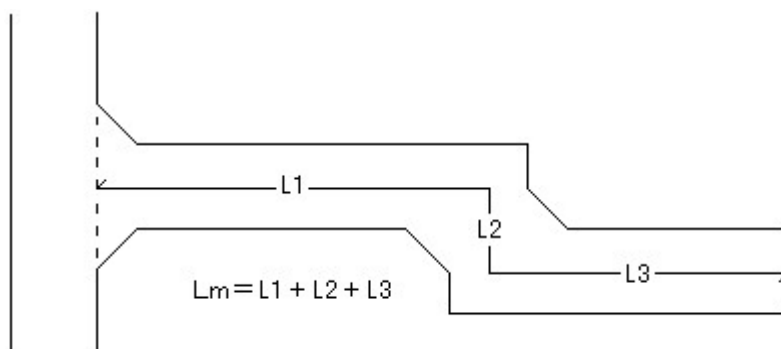
(D)



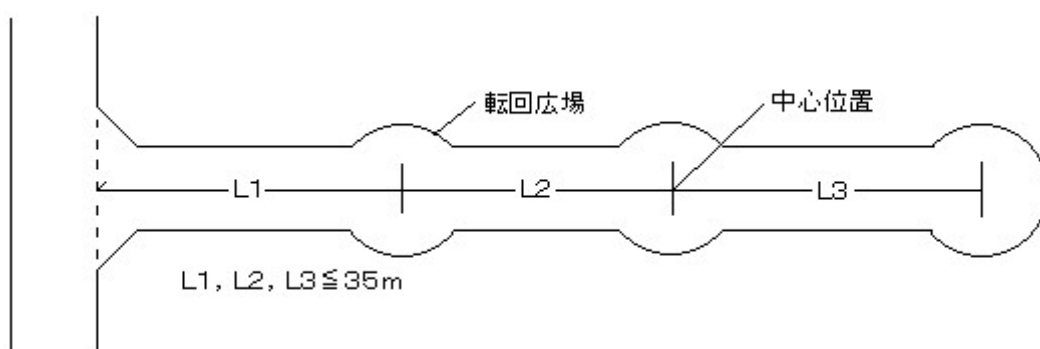
(E)



(F)



(G)



3-2-2. 既存指定道路に接続する場合

(昭和46年1月1日以前の指定道路に接続する場合)

[参考] 改正建築基準法施行令（昭和45年12月2日政令第333号）

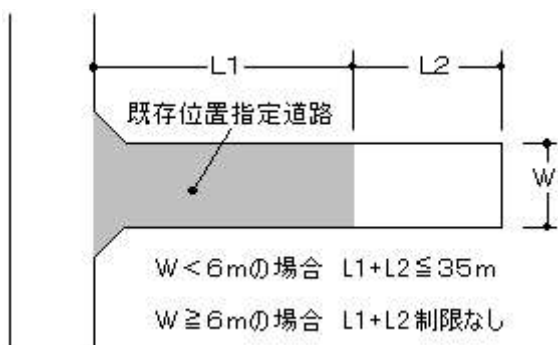
附 則 （抄）

（施行期日）

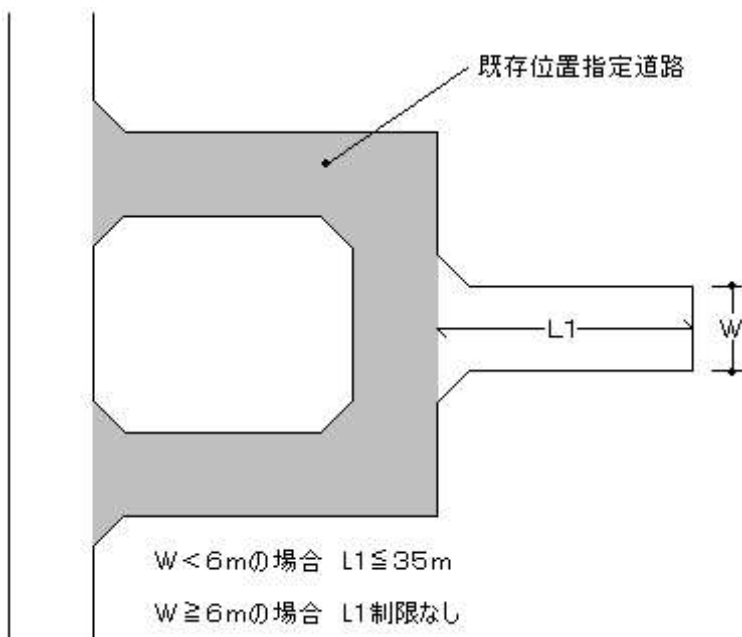
- 1 この政令は、建築基準法の一部を改正する法律（昭和45年法律第109号。以下「改正法」という。）の施行の日（昭和46年1月1日）から施行する。
（改正前の建築基準法第42条第1項第五号の規定による指定）
- 2 この政令の施行の際現に改正法による改正前の建築基準法第42条第1項第五号の規定による道路の位置の指定を受けている道は、この政令による改正後の建築基準法施行令第144条の4第1項各号に掲げる基準に適合するものとみなす。

- 注 1 既存道路が法第42条第2項に規定する道路に接続する場合も下各図に準ずる。
- 2 昭和46年以後に指定済の道路に接続する場合は既存指定道路を含めて施行令第144条の4第1項各号の検討をしなければならない。

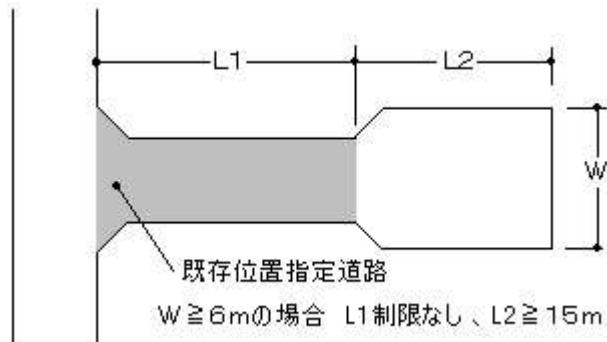
(A)



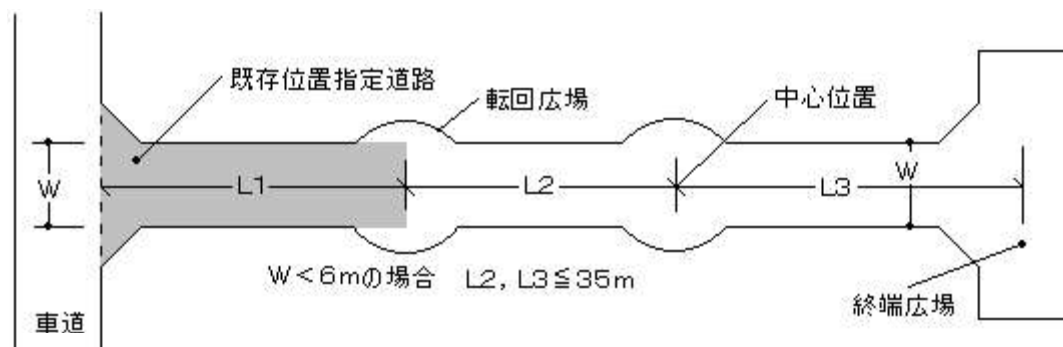
(B)



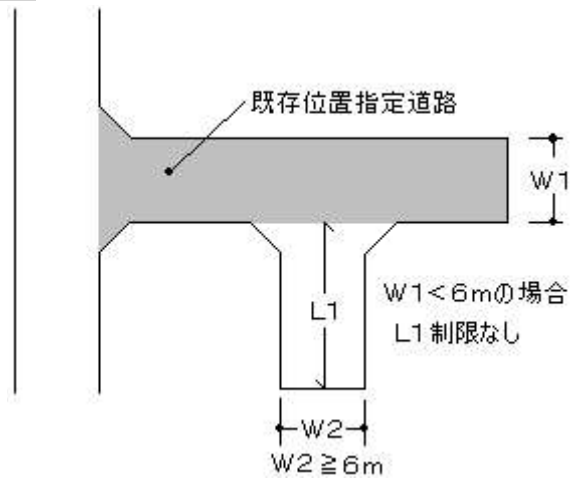
(C)



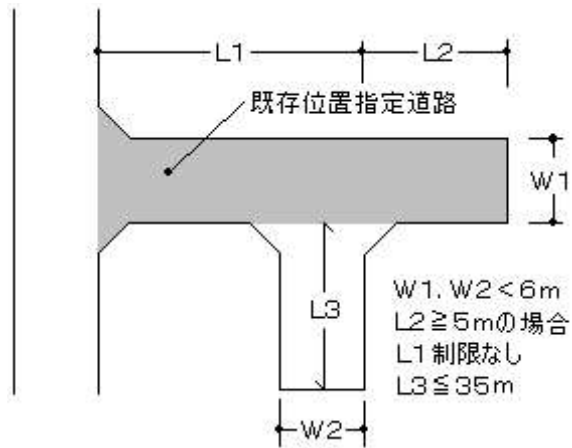
(D)



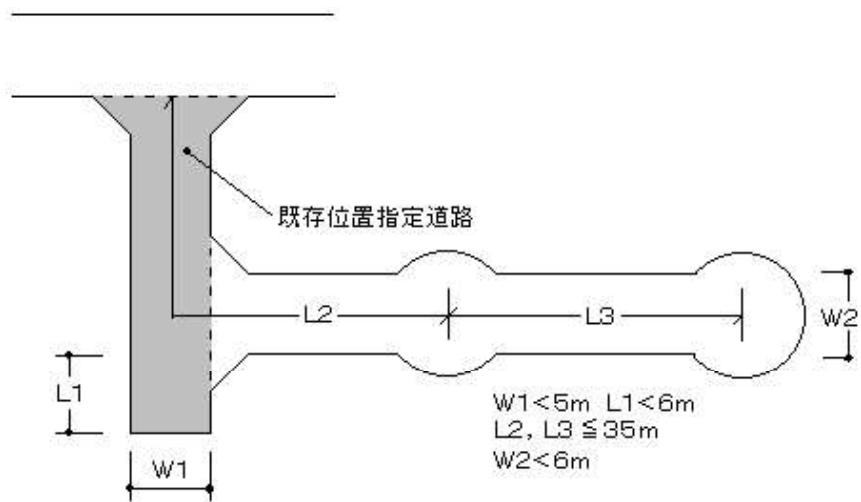
(E)



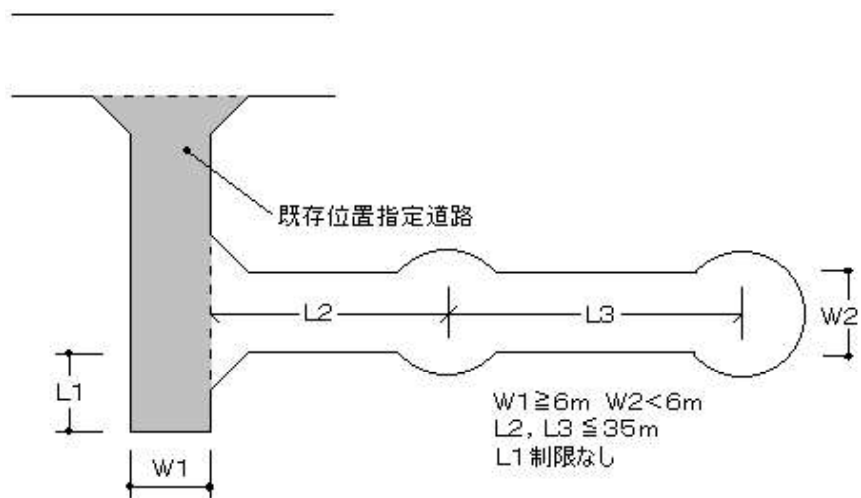
(F)



(G)



(H)

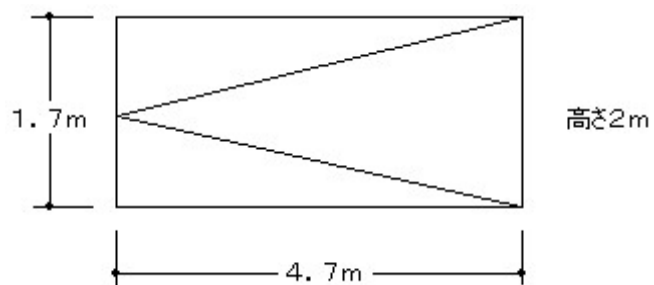


3-3. 転回広場

建設省告示第1837号（昭和45年12月28日）に規定する事項を満足すれば原則として形状は問わない。

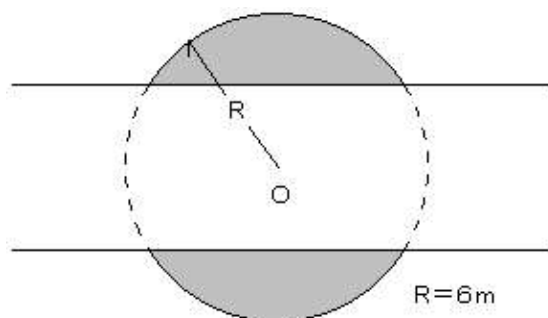
転回広場のみに接する敷地は法第43条第1項の規定に適合しているものとする。

（参考）小型四輪車 道路運送車両法施行規則（昭和26年運輸省令第74号）

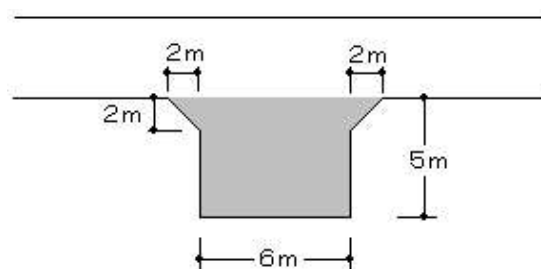


3-5-1. 中間に設置する場合

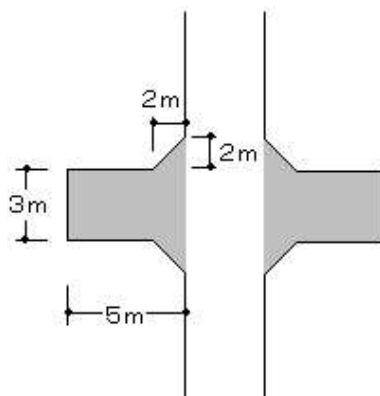
(A)



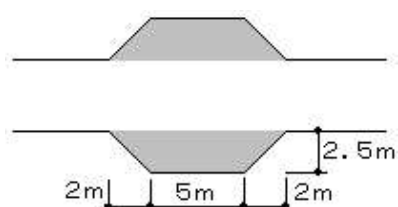
(B)



(C)

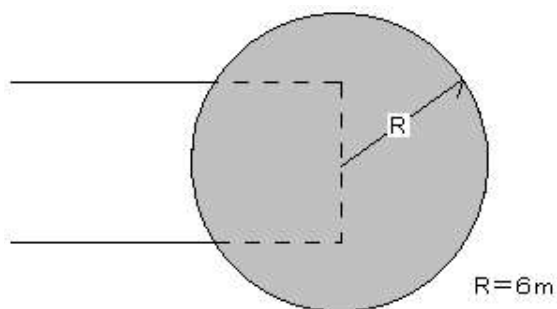


(D)

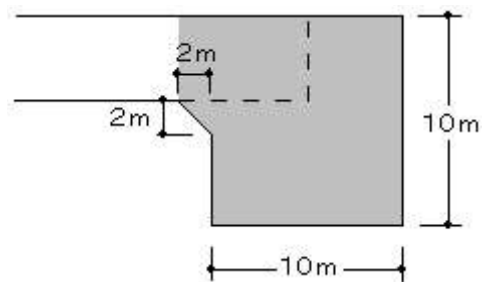


3-5-2. 終端に設ける場合

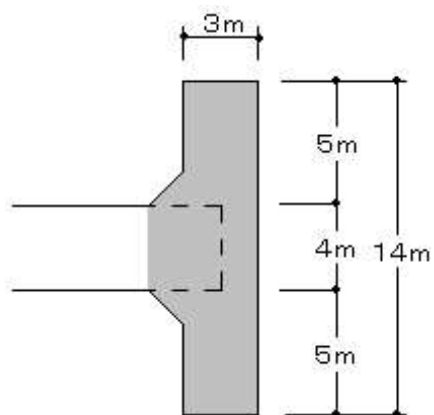
(A)



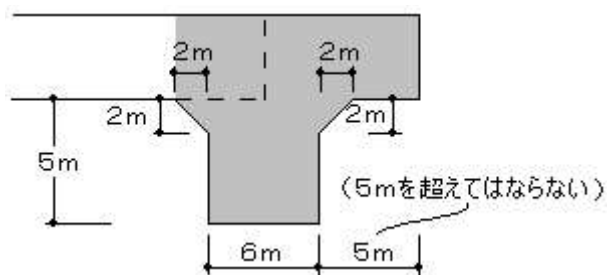
(B)



(C)



(D)



3-4. 道路幅員

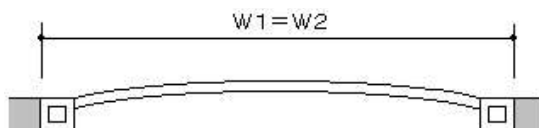
W1：指定道路有効幅員

W2：道路敷

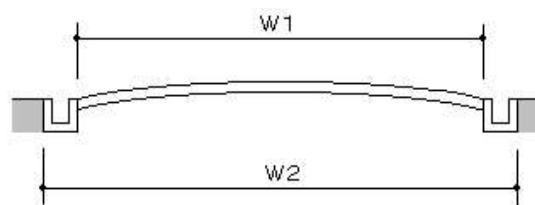
※道路指定行為は道路敷の範囲とする。

(A) U型側溝設置の場合

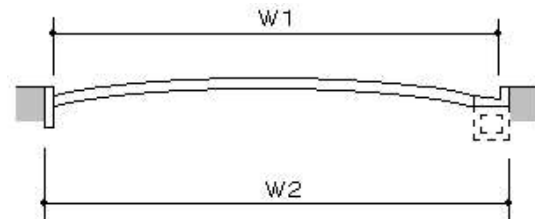
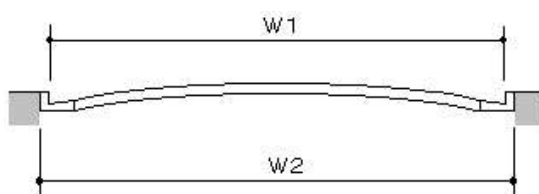
① 溝蓋の設置



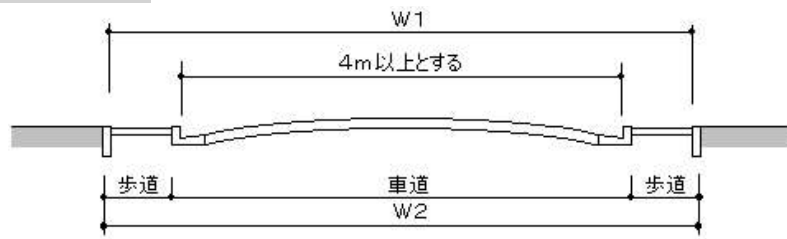
② 溝蓋なし



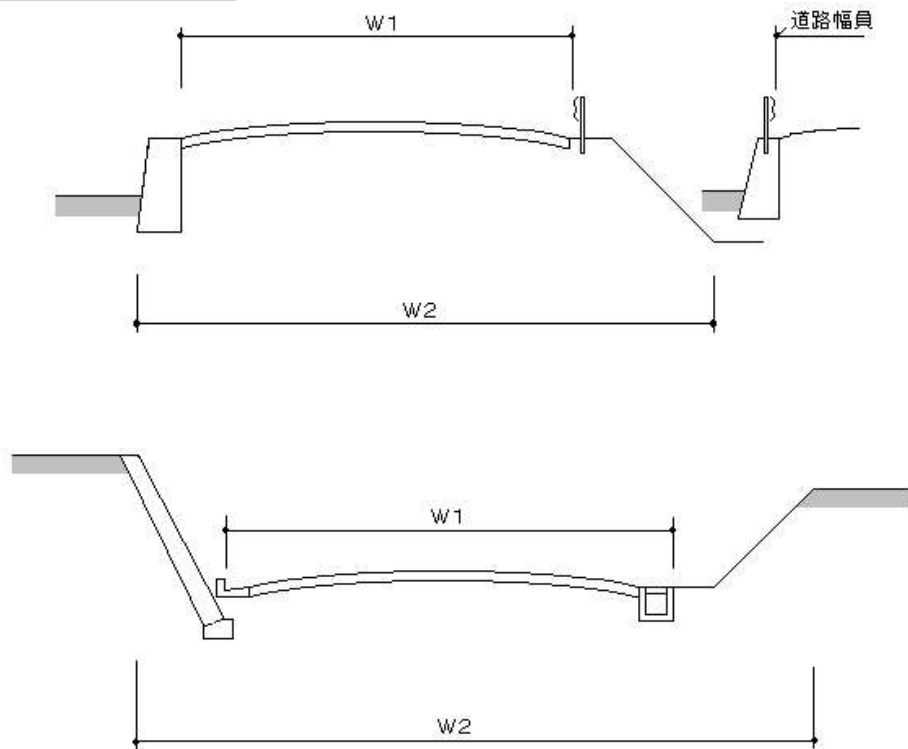
(B) L型側溝設置の場合



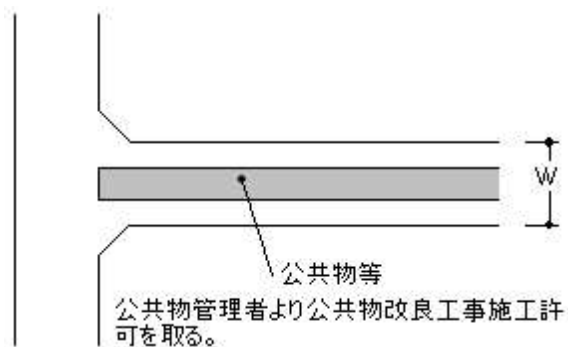
(C) 歩車道分離の場合



(D) 盛土、切土等の場合



(E) 公共物等を含む場合



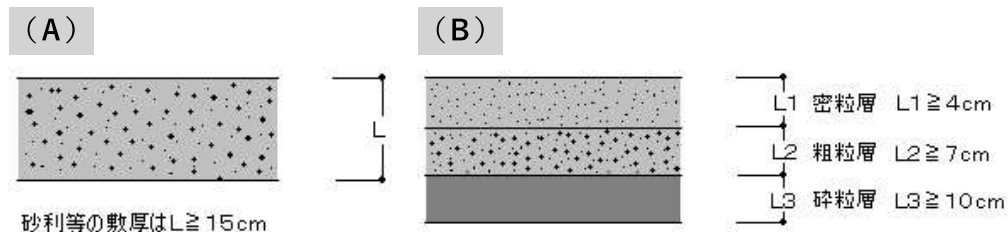
3-5.道路等の構造等

市町村に受入れてもらう場合は、当該市町村と打合せのうえ決定のこと

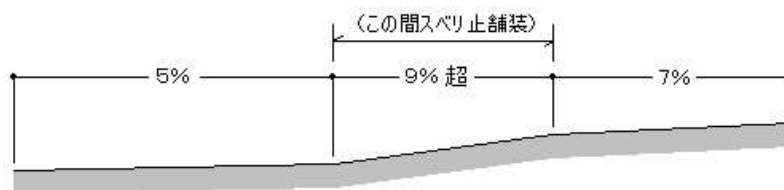
3-5-1. 路面の構造

- ① 路面は砂利敷等によりぬかるみとならない構造とする。

舗装の場合は、下図を標準とするが、土質、交通量を考慮して決定すること。



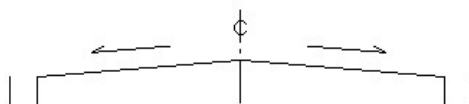
- ② 縦断勾配は12%以下とする。9%を超える勾配の場合は、すべり止め舗装をしなければならない。



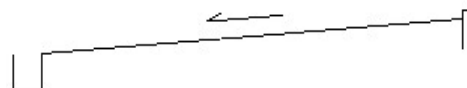
- ③ 横断勾配（標準値）

路面の種類	横断勾配（単位%）
セメントコンクリート舗装 アスファルトコンクリート舗装	1.5以上 2.0以下
その他	3.0以上 5.0以下
歩道又は自転車道	1.5以上 2.5以下

(A) 両勾配

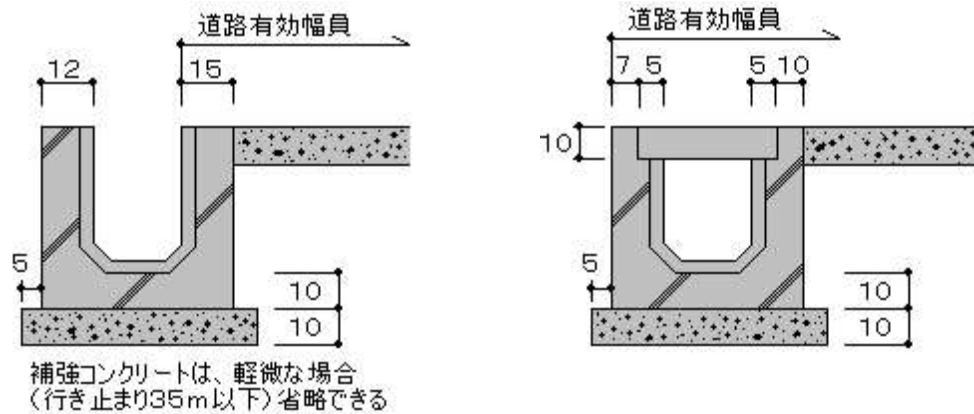


(B) 片勾配



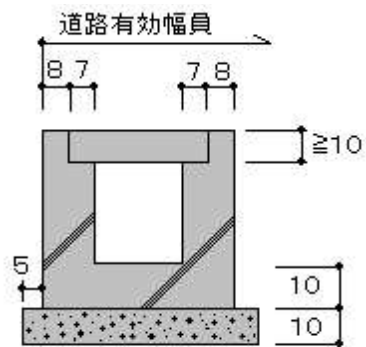
3-5-2. 道路側溝等の構造

(A) U型トラフ使用の場合

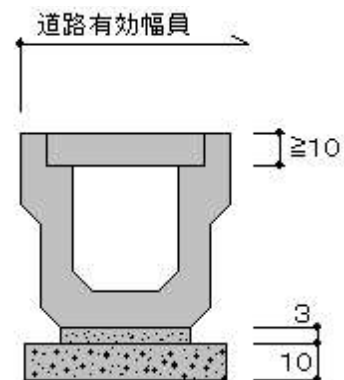


(B) 一般落し蓋の場合

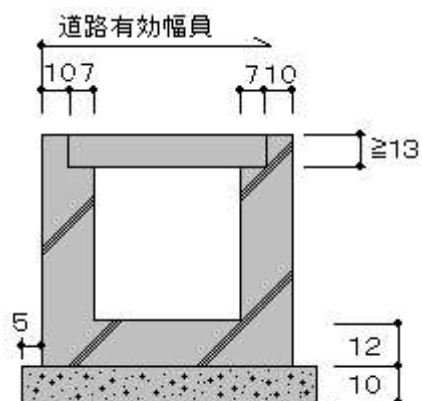
①現場打ち



②2次製品

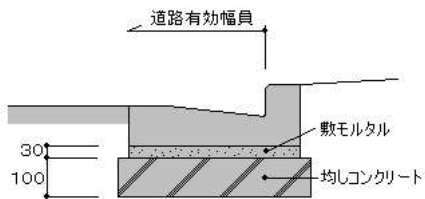


③大型車両を対象とする場合

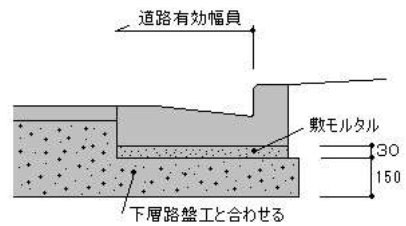


(C) L型側溝の場合

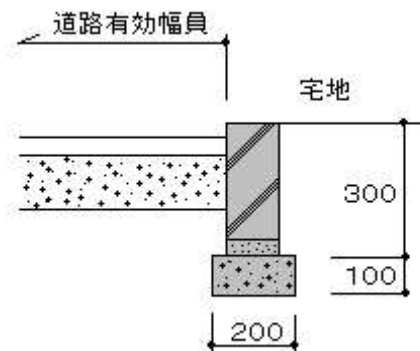
①砂利敷の場合



②舗装の場合



(D) 境界縁石の場合



注 道路の側溝等を道路幅員に含める場合には、対象とする自動車荷重に耐えられる構造（主に落蓋式）で溝蓋が布設されていること。

一般的には、住宅の街路では厚さ10cm以上、県道等の交差部又は大型車輛を対象とする場合には厚さ13cm以上を標準とし、グレーチングについては一般住宅地の場合は14トン用、大型車輛を対象とする場合は20トン用を、15mに1か所を標準に入れること。

延長の短い道路側溝については、下部ヒューム管を埋設しない。

L型側溝のみでもよいが流末の処理を明確にすること。

3-5-3. 擁壁の構造

原則として「宅地造成等規制法に基づく宅地造成の手引(群馬県県土整備部建築課)」の最新版を用いること。

【関係法令等】

- ・ 法第42条第1項第5号
- ・ 令第144条の4
- ・ 規則第9条、規則第10条、規則第10条の2
- ・ 細則第14条、細則第16条
- ・ 例規1-c-010、例規3-a-003、例規3-b-001